

「早期口腔がんにおける Rac1 発現の検索」

に関する研究へのご協力をお願い

このたび、東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科、口腔がんセンターでは、「早期口腔がんにおける Rac1 発現の検索」という臨床研究を行なっています。皆様には本研究の趣旨をご理解の上、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究は、東京歯科大学市川総合病院倫理審査委員会にて審査され、病院長の許可を得て実施しております。

1.研究目的

口腔がんでは、早期がんで術前に首のリンパ節に転移所見がないと診断されていても、少数のがん細胞が既に転移をしており、術後に首のリンパ節が腫れてくること（後発頸部リンパ節転移）があります。

口腔扁平上皮がんなどの上皮性のがんにおける転移の過程に関しては、上皮系の性質から間葉系の性質に変化していく上皮間葉転換という過程があり、この上皮間葉転換の活性により予後が悪くなることが知られています。さらに、近年では、この上皮間葉転換を促進するものとして、**Rac1** というタンパク質が注目されています。**Rac1** は細胞の運動や、細胞同士の接着に関係したもので、大腸がんなどにおいては、がんの中に **Rac1** を多く認めた場合は、がんの再発、リンパ節への転移や他の臓器への転移が起こりやすいと言われています。しかし、口腔がんでは **Rac1** との関係に関しては、報告されたものはありません。そのため、口腔がんにおいても、大腸がんと同様に **Rac1** が予後に関連していると予測を行い、口腔がんにおける **Rac1** 発現と後発頸部リンパ節転移との関連性を検索することを目的として研究を行います。

2. 予測される研究意義

今回の研究では、早期口腔がんにおいて、予防的に首のリンパ節を切除する予防的頸部郭清術の適応基準の確立などの治療方針の決定に寄与し、予後予測因子の解明の一途となり、治療成績の向上にも寄与することが期待されます。

3. 研究対象

2015年1月から2018年12月までに当院口腔外科、口腔がんセンターにおいて頸部リンパ節転移を伴わない早期口腔癌に対して手術を施行した患者様。

4. 研究方法

診療録をもとに以下の項目を収集いたします。患者様に直接ご連絡をすることはございません。

- ・ 患者背景：年齢、性別、既往、発症日、初発症状、受診経路、病悩期間
- ・ 画像検査所見：パノラマ X 線写真、CT、MRI、PET-CT
- ・ 臨床経過：病理標本、原発、治療、経過、予後

5. 試料・情報の取り扱い

患者様の情報収集を行ったデータ管理については研究担当者が厳重に管理を行います。情報管理者は研究責任者が責任を持って管理を行い、またそれらの情報が第三者へ譲渡もしくは公開されることはございません。ただし、本研究で得られた結果は学会発表、学術論文にて公開する場合はございますが個人が特定できる個人情報を含みません。研究終了後は、5年間保管後に速やかに破棄いたします。

6. 費用

この研究により、新たな検査や費用が生じることはございません。また、情報を使用した患者様への謝礼などもございません。

7. 研究計画書の開示

ご希望がございましたら、個人情報の保護や研究の独自性の確保に支障がない範囲で、この研究計画書の資料などを閲覧または入手することができます。本研究へご協力が了承されない場合やご協力の撤回をされる場合はお申し出ください。本研究の参加の可否により、患者様の治療に不利益が生じることはございません。どうぞよろしくお願いいたします。

お問い合わせ

東京歯科大学市川総合病院 口腔腫瘍外科講座

野村 武史

住所：千葉県市川市菅野 5-11-13

電話：047-322-0151